

令和3年度 第1回福崎町地域公共交通活性化協議会会議録

1. 日時 令和3年6月15日(月) 14:00~14:52

2. 場所 福崎町役場 2階 大会議室

3. 委員の出欠

	所属・役職等	氏名	備考
会長	兵庫県立大学名誉教授	松本 滋	
委員	福崎町区長会 代表	谷本 敬三	
	福崎町老人クラブ連合会長	藤岡 修	欠席
	福崎町商工会長	谷口 守男	欠席
	JR西日本福崎駅 副駅長	東村 善夫	欠席
	神姫バス株式会社 姫路営業所長	池田 広幸	
	社団法人 兵庫県バス協会専務理事	水田 節男	
	社団法人 兵庫県タクシー協会 西播支部支部長 (神崎交通株式会社)	依藤 義光	
	神姫バス労働組合 副執行委員長	山本 記義	
	国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部 輸送部門首席運輸企画専門官	田橋 一	
	中播磨県民センター姫路土木事務所 企画調整担当所長補佐	安井誠一郎	
	福崎警察署 交通課長	平瀬 清	
	福崎町議会議員 (民生まちづくり常任委員会)	宇崎 壽幸	
	福崎町議会議員 (総務文教常任委員会)	富田 昭市	
	副町長	近藤 博之	
技監	野邊 正彦		
オブザーバー	近畿地方整備局姫路河川国道事務所 道路管理第二課長	竹内 浩二	欠席
	兵庫県県土整備部県土企画局 交通政策課 副課長	奥藤 秀樹	
特別委員	姫路市都市局交通計画室 主幹	池内 一人	

事務局	まちづくり課長	山下 勝功	
	健康福祉課長	谷岡 周和	
	健康福祉課 課長補佐	藤田 裕文	
	まちづくり課 課長補佐	澤田 和也	
	まちづくり課 主事	辻中 寛朗	
姫路市	交通計画室 係長	市村 力也	

4. 配布資料

- ・会議次第
- ・座席位置表及び委員名簿
- ・資料1 巡回バス「サルビア号」等の利用状況について
- ・資料2 福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」利用状況について
- ・資料3 地域内フィーダー系統確保維持計画策定について

5. 傍聴の可否

傍聴可、傍聴人 5名

6. 会議録（司会 まちづくり課長）

1 開会

2 あいさつ（会長）

3 報告事項

①巡回バス「サルビア号」等の利用状況について

会 長 それでは、報告事項①巡回バス「サルビア号」等の利用状況について、事務局から説明していただきます。

事 務 局 資料1により説明
(2ページ)

サルビア号の各路線の運行改編を4月と10月にさせていただきました。令和3年4月より運行事業者が神姫バスから神崎交通へと変更になっています。郊外便（川西便）の改編として、4月に1便目を統合便に変更しています。郊外便（川東地区）の改編を10月にさせていただきました。こちらについてはかなり大きな変更で、神姫バスの了解を得て福崎駅への乗り入れを開始し、これにより町内のどこからでも福崎駅に行けるようになりました。同じく10月に買い物便の改編として、それまでは火曜日が八千種方面、木曜日が大貫方面として運行していましたが運行を統合し利便性が向上しました。また、4月に新型コロナウイルス感染症に伴うリモートにより、大学バスの運行本数が4便から2便になりました。改編しましたが運行の実績は厳しかったと思います。

(3ページ)

令和元年度の利用者数は、もう少しで20,000人になりそうでしたが、昨年度は約15,000人で実績が減ってしまいました。自治会回りができずにこのような状況になっております。

(4ページ)

平成11年から令和2年度までの利用者数の推移になります。平成11年から平成24年の途中までは神姫バスにより小型バスでの運行をしていました。平成24年12月にコミュニティバスに再編し、まちなか便と郊外便になりました。利用者数は令和元年度までは右肩上がりだったのですが、令和2年度から落ちています。コロナ収束後、何とか元に戻していきたいと考えています。一部自治会より乗車体験の要望があるので積極的にやっていき、頑張りたいと思っています。

(5ページ)

大学バスについて、福崎駅と西野南（ボンマルシェ前）の間を神戸医療

福祉大学のご厚意で運行していましたが、大学バスの運営自体を見直す、ということで残念ながら令和3年3月31日で運行廃止となりました。以上で説明を終わります。

会 長 何か質問等ありませんか。
なければ、次に移りたいと思います。

②福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」利用状況について

会 長 報告事項②福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」の利用状況について事務局より説明していただきます。

事務局 資料2をご覧ください。

利用実績については前回の会議で報告した内容と重複するところがありますが、ご了承いただきたいと思います。

(2ページ)

ふくひめ号の現在の運行状況です。運行方法は定時定路線です。運行路線は通勤便A(上り)が2便、通勤便A(下り)が2便、通勤便Bが2便、連携便が5便で計11便です。運行日は月曜日から土曜日で、土曜日については連携便の4便目、5便目、6便目の3便のみ運行しています。運休日は日曜、祝日、年末年始と秋まつり実施日です。

(3ページ)

ふくひめ号の利用料金です。通常運賃は現金1回利用で、中学生以上が1回200円、小学生100円、未就学児は無料です。定期券は1ヶ月定期と6ヶ月定期があり、対象者により金額を設定しています。4月から11枚綴りの回数券、スマホ決済「PayPay」の利用が可能となっております。

(4、5ページ)

時刻表と路線図になります。

(6ページ)

各便ごとの利用者の実績です。前回の会議では12月までの実績報告をしましたが、令和3年5月までの実績が出たので報告します。令和2年度は運行日数が294日、利用者数は11,757人、日あたり約40人です。本格運行を開始した令和3年4月は運行日が25日、955人の利用があり日平均38.2人でした。5月は運行日が23日、利用者が822人で日平均35.7人でした。

(7ページ)

月別利用者数及び運行日当たりの利用者数のグラフです。令和2年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令された4月から5月、11月から2月は減少しました。3月以降増加傾向にありましたが4月末に再度緊急事態宣言が発令され利用者数が減少しています。

(8ページ)

平日の月別利用者数で、令和2年度の日平均は約46人、令和3年度の4、5月の日平均は約45人です。

(9ページ)

土曜日の月別利用者数です。令和2年度の日平均は約8人、令和3年度も土曜日は平日に比べて少ない状況となっております。

(10ページ)

曜日別の利用者数のグラフです。土曜日の利用が少ない状況です。令和3年4月から利用の少ない通勤便の運行を廃止し、連携便の4便、5便、6便のみ運行していますがコロナの影響で伸び悩んでいる状況です。

(11ページ)

便別の利用者数になります。1から3便、8便に関しては通勤便なので利用状況が堅調です。5便から7便はあまり利用が伸びていません。最終便の11便は、この4月から工業団地の夜勤対応としてダイヤ改正をしました。その効果が出ており利用者が増加しています。

(12ページ)

バス停別利用者数です。利用の多いバス停はJR溝口駅、凸版印刷前、駅前(交通広場)です。利用の少ないバス停は西谷、中島(精米所前)、八幡集会所前です。コロナ禍で利用促進を図るのが難しい状況ですが、引き続き沿線住民への周知に努めていきたいと思っております。

(13ページ)

令和2年度の収入状況です。定期券、乗車券、現金利用を合わせて1,581,838円でした。最後になりましたが、ふくひめ号の運行については、社会実験実施期間中に利用状況やアンケート調査、協議会での意見等を踏まえて、より利用しやすい運行を目指し、ダイヤ改正やルート変更を行ってきました。そしてこの4月から本格運行を開始しています。引き続き利用状況等を見極めながらダイヤ、ルートの検討を行うとともに、利用促進を図っていきたいと考えています。以上で報告事項②についての説明を終わります。

会 長 何か質問等ありませんか。
なければ、次に移りたいと思っております。

4 協議事項

①地域内フィーダー系統確保維持計画について

会 長 協議事項①地域内フィーダー系統確保維持計画について事務局に説明していただきます。

事 務 局 資料3をご覧ください。

今回申請する補助の対象期間は令和3年10月から令和4年9月までの運行期間です。国のフィーダー補助を受けるには計画を策定する必要があるため本日協議をさせていただきます。

(1ページ)

申請書の鏡です。本日承認後、福崎町地域公共交通活性化協議会、代表者、松本会長の名前で国に申請します。

(2ページ)

地域内フィーダー系統確保維持計画の内容です。昨年度も申請していますが、内容についてはほぼ変更がありません。名称は、福崎町・姫路市地域内フィーダー系統確保維持計画としております。

1番に地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性を記載しています。概要は、姫路市の交通空白地域の解消や工業団地への通勤の足の確保、自動車から公共交通機関への転換、JRからの2次交通の確保、障がい

者の雇用確保を図るために、ふくひめ号を運行することにしてあります。
2番の地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果として、福崎町地域公共交通網形成計画にも記載してありますが、利用者数1日あたり48人以上を事業の目標としています。事業の効果としては、交通不便地の解消、移動手段の確保、障がい者の就業支援、外出促進に繋がると思っています。

3番は目標を達成するために行う事業及びその実施主体です。姫路市や地域住民、各協議会との連携及び利用促進、時刻表配布、地元住民による乗り方教室の開催、企業と自立支援協議会が共同で実施する企業見学会、企業による障害者研修生の受け入れ及び採用としています。

4番の概要及び運行予定者は表1を添付しています。後ほど説明します。
(3ページ)

5番が費用の負担で、今回運行していただく神崎交通へ町から運行補助金を出す予定です。国庫補助金を差し引いた額は姫路市と福崎町で折半する予定です。

6番は補助対象事業者の名称で福崎町地域公共交通活性化協議会としております。

7番は利用状況等の継続的な測定方法として毎年の収支率や利用者数の確認、協議会での検証を実施する予定です。

8番から11番については該当なしです。

12番は事業を行う地域の概要として「表5」を添付しています。

13番は該当なしです。

(4ページ)

14番から16番は該当なしです。

17番は協議会の開催状況と主な議論です。ふくひめ号については令和元年7月に協議・承認をいただき、同10月から社会実験を開始しています。その後運行再編等について協議し、この協議会で承認していただいています。本日、令和4年度のフィーダー計画について協議させていただきます。

18番の利用者等の意見の反映状況については活性化協議会の構成員として住民及び利用者代表の参画を得ています。

19番は協議会メンバーの構成員として委員名簿を添付しています。

(6ページ)

表1は地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者です。令和4年度分で、運送予定者は神崎交通、運行系統は姫路市連携①の通勤便A、姫路市連携③の連携便です。通勤便Bについては補助対象の要件である神姫バスとの接続がないため対象外となっています。それぞれの起終点、キロ程、計画運行日数、計画運行回数等を掲載しています。右側には補助要件に適合するという内容を掲載しています。

(7ページ)

令和5年度分の地域内フィーダー系統です。

(8ページ)

令和6年度分の地域内フィーダー系統です。

(9 ページ)

地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要です。

(1 0 ページ)

通勤便 A ・ B の路線図です

(1 1 ページ)

連携便の路線図です。

(1 2 ページ)

各バスの路線図で、神姫バスとの接続がある事を表す図となっています。太い青の線が神姫バスの路線で、赤色が「ふくひめ号」のルート図です。福崎駅前と姫路市の宮脇口で神姫バスとの接続があります。

(1 3 、 1 4 ページ)

ふくひめ号の時刻表です。

(1 5 ～ 1 8 ページ)

各便における停留所の名称、位置、バス停間の距離を表した表です。

(1 9 ～ 2 4 ページ)

各年度毎の運行日数・回数のカレンダーです。

参考資料として補助事業内容やスケジュールを参考に添付しています。

以上で説明を終わります。

会 長 ありがとうございます。

この件に関して何かご質問等ございませんか。

委 員 2 ページ 2 (1) 事業の目標が大事だと思います。福崎町地域公共交通網形成計画 P 7 2 参照となっているが簡単に内容の説明をお願いします。

事務局 地域公共交通網形成計画の中で姫路市との連携バスの利用者数の指標を示しています。2 0 2 5 年度目標値としておりますが、当時の巡回バス・まちなか便の実績を参考に、日あたり 4 8 人と目標値を設定しています。

会 長 通勤便 B も含まれるがそれは構わないのか。

事務局 今回の補助対象にはなっていませんが全体で 4 8 人に設定しています。各系統毎の目標人数としては通勤便 A は 2 4 人 / 日以上、連携便は 1 2 人 / 日以上と各便毎にも設定しています。

会 長 コロナの影響があると思うが、この状況で目標値にして良いのか。

事務局 難しいところではありますが、通勤便に関しては通勤者の利用が多いのでコロナの影響はさほど出ておりません。連携便については利用者数が減っていますが、コロナ収束後、時期をみて積極的に利用促進を図り、目標を達成できるように頑張りたいと思っています。

会 長 他にありますか。

事務局 補足になります。2 ページの 3 について、昨年度、姫路市の特別支援学級が工業団地の企業協力を得てキャリアガイダンスとして工場見学を実施しました。今年度も 8 月に神崎郡内の特別支援学級の生徒と保護者を含め工場見学を検討されています。

会 長 就職に結びつく可能性があるのか。

事務局 はい。ふくひめ号で就職に繋がった事例もあります。ふくひめ号に自分一人で乗ってもらい現場で親御さんと集合して工場見学をするというもので、協力してもらおう企業が 2 、 3 社あります。

会 長 保護者も一緒に乗ったら良いのではないか。

事務局 バスのキャパが限られているためです。

会長 わかりました。他にありますか。

特別委員 福崎町をはじめ、活性化協議会委員の皆様には、ふくひめ号に関して深いご理解とご協力をありがとうございます。昨年度末まではトヨタモビリティ基金を活用して、市町共に財源の負担なく運行していましたが、いよいよ本格運行に入るとやはり利用料金だけでは、まかないきれないので、活性化協議会を通じて少しでも財源の確保ということで福崎町にご尽力いただき、補助金を申請してもらいます。本格運行に際し、社会実験の時から利用が少なかった土曜日について、姫路市と福崎町で協議しました。コロナ禍で高齢者や交通弱者の方が出控えているという状況の中で本格運行になり、すぐに休止してしまうのはやぶさかではないので連携便のみを残しました。今後コロナが収束、またワクチン接種の進み具合によって利用が進むようであれば、地元に対して積極的に利用促進のPRや利用を促す活動をしていきたいと思っています。その上で利用が伸び悩むようであればルートの見直し、最悪の場合は土曜日の休止も考えていきたいので、ご理解、ご協力よろしく申し上げます。

会長 ありがとうございます。毎年申請するので来年度の申請の折にはこの目標を大きくできるように1年間頑張っていきたいと思います。

委員 通勤便Bは神姫バスとの接続がないため補助対象外だが、補助対象となるのは路線として接続しているということか、ダイヤ的に接続しているということか。

事務局 路線として接続です。ダイヤについては、利用者が利用しやすいように神姫バスに合わせています。バス停も同じ場所に設置しています。

委員 JR溝口駅から一ついくと神姫バスのバス停があると思うが、通勤便Bを補助対象にするために、そこを通るようなルートにすれば補助対象になるのではないか、と思いました。

事務局 本格運行を開始してすぐには変えませんが、全系統が補助対象になる案も考えていきたいと思っています。

会長 補助額が増額することも考えられるのか。

事務局 はい。

会長 協議事項なので採決を取りたいと思います。賛成の方は挙手して下さい。
(全員挙手)
協議事項①について挙手全員により本協議会の協議は採択されました。

5 その他

委員 平素は公共交通事業にご理解ご協力いただきありがとうございます。IC乗車券利用件数について、利用者が約8割まで戻って来ていたが、また7割に下がって来ました。特に乗車率が下がっているのが学生のリモート授業による通学です。高速線に関しても関西国際空港行きは全便運休、伊丹空港行きも減便、鳥取行きに関しても緊急事態宣言により運休中で非常に厳しい状況が続いています。みなさまのご利用をよろしくお願いたします。

会長 是非とも頑張ってください。その他ありませんか。

委員 コロナの関係で路線バス、コミュニティバス共に利用者が減っています。

今後利用者の増加、利用促進をお願いします。貸し切りバス事業はほとんど動いていない状況です。このような状況が1年以上続いておりなかなか回復の兆しがないが、状況が落ち着いたら研修旅行など助成金が出る制度を利用して下さい。県民交流バスもあるのでよろしくお願いします。以上です。

会 長 以上でよろしいでしょうか。
では、事務局に司会を戻します。

6 閉会

事務局 会長ありがとうございました。
以上をもちまして、令和3年度第1回福崎町地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

—以上—